

NICUから一般病棟へ転棟した児の母親の体験に関する文献検討

(新生児集中治療室／転棟／母親／文献検討)

三代侑佳¹⁾・秋鹿都子²⁾・福田誠司³⁾

Literature Review on the Experience of Mothers of the Children Who Were Transferred From the Neonatal Intensive Care Unit to the General Ward

(neonatal intensive care unit / general ward / transfer / mother / literature review)

Yuka MISHIRO¹⁾, Satoko AIKA²⁾, Seiji FUKUDA³⁾

【要旨】本研究は、NICUから一般病棟へ転棟した児の母親の転棟直後からその後にかけての体験を明らかにし、NICUから一般病棟へ転棟した児の母親に対する支援について検討することを目的とした。医学中央雑誌Web版にて、NICU、母親、小児病棟、産科、転棟をキーワードに検索し、4件を分析対象とした。NICUから一般病棟へ転棟直後の母親の体験は3カテゴリー、6サブカテゴリー、その後の体験は8カテゴリー、18サブカテゴリーで構成された。母親は複雑な心情を抱きながらも児のためにケアや医療的ケアを頑張り、心身共に疲労していた。母親への看護として、転棟直後の不安軽減、母親の状態を見極め力を引き出す丁寧な関り、疲労緩和の必要性が示唆された。

I. はじめに

近年、低出生体重児や医療的ケアの必要な児が増加している¹⁾。そのため、新生児集中治療室 (Neonatal Intensive Care Unit: NICU) から一般病棟へ転棟し、母親が児と共に過ごしながらか在宅療養に向けた医療的ケアや育児手技の練習を行うケースは少なくない²⁾。

先行研究では、一般病棟に入院した児の付き添いをする母親は、看護師に遠慮したり、家に残した家族の世話ができないことや同胞の健康や精神状態を心配したりしている³⁾。そして、自身の休息や身の回りのことが思うように出来ないことや同室者への気兼ねなどにより、心身共に休まらないことが明らかとなっている⁴⁾。NICUから一般病棟へ転棟した児の母親は、こうした負担に加え、転棟による新たな医療者との関係構築が必要となる

ことや、一般病棟はNICUのようなワンフロア構造ではなく、患児一人当たりの看護師数も少ないことから、児に対するケアに不安を抱く等、より負担感が増すことが推測される。

そこで本研究では、NICUから一般病棟へ転棟した児の母親は転棟直後からその後にかけてどのような感情を持ち、どのような経験をしているのか、その体験について先行研究で明らかになっていることを整理し、NICUから一般病棟へ転棟した児の母親に対する支援について検討する。

II. 目的

本研究は、NICUから一般病棟へ転棟した児の母親の転棟直後からその後にかけての体験を明らかにし、NICUから一般病棟へ転棟した児の母親に対する支援について検討することを目的とする。

III. 用語の定義

「一般病棟」とは、NICUから児が転出する先の病棟とし、小児病棟に限らず一般診療科の病棟を含める。

¹⁾ 鳥根大学医学部附属病院看護部 NICU
Neonatal Intensive Care Unit, Department of Nursing, Shimane University Hospital

²⁾ 鳥根大学医学部臨床看護学講座
Department of Clinical Nursing, Faculty of Medicine, Shimane University

³⁾ 鳥根大学医学部附属病院 医療安全管理部
Patient Safety Department, Shimane University Hospital

表1 NICUから一般病棟へ転棟した児の母親の体験に関する文献一覧

番号	著者	発行年	表題	対象	掲載雑誌	分析
①	西田志穂	2006	NICUから小児病棟へ転棟し継続入院する乳児を持つ母親の体験	母親7名	日本看護学会誌 26(4),64-73	民族看護学
②	前林雅世 他	2008	NICUから小児病棟へ転出した患児の両親へのオリエンテーションのあり方	母親4名	日本看護学会論文集：小児看護 38,116-118	質的
③	辻井嵯知 他	2015	NICUから小児科病棟へ転棟し在宅療養に向かう子どもの家族の気持ちの変化：母親へのインタビューを通して	家族2名	京都府立医科大学附属病院看護部看護研究論文集 2015,25-32	質的
④	濱松 彩 他	2017	先天性心疾患でNICUへ入院し、循環器病棟へ転棟した子どもを養育する母親の気持ちの変化	母親4名	小児看護 40(1),120-125	質的

IV. 方 法

1. 対 象

医学中央雑誌Web版にて、NICU、母親、小児病棟、産科、転棟をキーワードに、2005～2020年の文献を会議録を除いて検索した。抽出された26件の内、タイトルと抄録からNICUから一般病棟へ転棟した児の母親を対象としていないと判断される文献19件と重複文献3件を除外し、4件を分析対象とした(表1)。

2. 分析方法

対象文献の主張を捉えて内容を精読し、母親の転棟直後からその後にかけての体験に関する記述部分を抽出した。次に抽出部分を比較しながら、類似性により、カテゴリ化を行った。なお、転棟直後とそれ後の体験についての分類は、語りの内容に基づいて行った。分析結果は研究メンバー間でチェックを行い、母親の体験の類型化や内容を検討し、妥当性を高めた。

V. 結 果

NICUから一般病棟へ転棟した児の母親の転棟直後の体験は、3カテゴリ、6サブカテゴリで構成されており(表2)、その後の体験は、8カテゴリ、18サブカテゴリで構成されていた(表3)。

以下、カテゴリは【 】、サブカテゴリは《 》、内容は〈 〉、文献は数字で示す。

1. NICUから一般病棟へ転棟直後の児の母親の体験

1) 【NICUから出たことは良かったのか分からない】

転棟直後の児の母親は、今まで生命の危機に瀕していたわが子がNICUから一般病棟へ転棟したことに対し、〈移動ってよいことか悪いことかわからない④〉〈気持ちあまり整理できない④〉といった【NICUから出た

ことは良かったのか分からない】と感じる体験をしていた。

2) 【一般病棟での生活のイメージがつかない】

転棟直後の児の母親は、《病棟がどういうところかイメージがつかない》と感じ、〈1日の生活の流れのイメージがつかない②〉〈付き添い時の自分の生活はどうすればいいのだろうか②〉のように、《わが子のとの生活の流れのイメージがつかない》と感じるという【一般病棟での生活のイメージがつかない】体験をしていた。

3) 【一般病棟の看護への不安】

転棟直後の児の母親は、《受け持ち看護師が分からない》《わが子のことを把握していない看護師ばかりで不安に思う》という体験をしていた。そして〈病棟とNICUの処置の方法の違いに戸惑ったが、どちらがいいのか看護師に聞きにくい②〉など、《NICUと一般病棟との処置の違いに戸惑う》といった【一般病棟の看護への不安】を感じる体験をしていた。

2. NICUから一般病棟へ転棟後の児の母親の体験

1) 【わが子と一緒にいられる喜び】

母親は〈母親としてお世話できるのでうれしい④〉と、《わが子の世話に喜びを感じ(る)》ていた。また〈ようやく一緒に寝れる③〉、〈オムツとかミルクとかも、それやってうちに自信じゃないけどやっと自分の子に近づけたっていうのはわかりました ①〉のように、物理的にも精神的にも《わが子の存在を身近に感じ(る)》、【わが子と一緒にいられる喜び】を体験していた。

2) 【わが子の回復に安堵】

母親は、〈やっぱり(NICUから)出れたっていうのが一歩前進してるのかなっていう。…略…やっぱりあそこ(NICU)にいるってことはイコール具合が悪い、外に出

表2 NICU から一般病棟へ転棟直後の母親の体験

カテゴリー	サブカテゴリー
NICU から出たことは良かったのか分からない	NICU から出たことは良かったのか分からない
一般病棟での生活のイメージがつかない	病棟がどういうところかイメージがつかない わが子との生活の流れのイメージがつかない
一般病棟の看護への不安	受け持ち看護師が分からない わが子のことを把握していない看護師ばかりで不安に思う NICU と一般病棟との処置の違いに戸惑う

表3 NICU から一般病棟へ転棟後の母親の体験

カテゴリー	サブカテゴリー
わが子と一緒にいられる喜び	わが子の世話に喜びを感じる わが子の存在を身近に感じる
わが子の回復に安堵	転棟をわが子の状態の安定と捉え安堵する 他児を見てわが子の回復を想像し安堵する 服を着たわが子を見て一歩前進したと実感する
わが子の小ささを実感	他児と比べわが子が小さいと感じる
初めてのケアを一人で行うことへの不安	初めての処置の時に看護師がいなくて不安を感じる わが子の世話ができるものとして扱われ、戸惑う
忙しい看護師がわが子を安全に見てくれるか心配	一般病棟の忙しさを知り、わが子をしっかり見てもらえるか心配に思う 自分が傍にいない時のわが子の心配をする
看護師に手を掛けてもらうことへの諦め	NICU よりもわが子に手をかけてもらえていないと感じる 全てしてもらえないのは仕方がないと感じる 看護師の代わりに看ることを求められているように感じる 他の母親が頑張っているのに、自分だけ頼めないと思う
わが子のためにケアを頑張る	わが子の世話を自分でできるようにならなければと腹をくくる 沐浴を勇気を出してやってみる
付き添うことによる疲労	周囲に気を遣う 身体がしんどい
自責の念	自分のせいだと感じる 変わってあげられればと思う 健康に産んであげられなかったと思う
児の小さなことにも心が揺れる	落ち着いたときにいろいろ考える 毎日浮き沈みがある

れないってことイコール状態が悪いっていうふうに思ってたんで、そこから出ることにはもう、普通の赤ちゃんっていうか普通に生活しても大丈夫なのかなって①)のように、NICUからの《転棟をわが子の状態の安定と捉え安堵(する)》していた。また、〈ある程度みんなぷっくりした子が多かったから、そういうので安堵感とかあったし①)のように、一般病棟の《他児を見てわが子の回復を想像し安堵する》や、〈やっぱり洋服着てると表情が違って見えるっていうのかな…略…そうすると顔が違って見えたと、普通の子どもと一緒に来たかなって①)のように、病衣や自宅から用意した《服を着たわが子を見て一歩前進したと実感する》など、

【わが子の回復に安堵】する体験をしていた。

3) 【わが子の小ささを実感】

母親は、〈普通の大きい子が多かったから、あっ、やっぱりちっちゃいって思っ①)のように、《他児と比べわが子が小さいと感じる》という【わが子の小ささを実感】する体験をしていた。

4) 【初めてのケアを一人で行うことへの不安】

母親は、《初めての処置の時に看護師がいなくて不安を感じる》と共に、〈最初オムツ替えするときに“ちょっとじゃお母さんオムツ替えお願いします”ってポンって

言われたんですよ。“えーっ？”て思っで“ちょっと教えてください”って言ったんだけど①)のように、《わが子の世話ができるものとして扱われ戸惑う》といった【初めてのケアを一人で行うことへの不安】を感じていた。

5) 【忙しい看護師がわが子を安全に見てくれるか心配】

母親は、《一般病棟の忙しさを知り、わが子をしっかりと見てもらえるか心配に思う》や、《自分がそばにいない時にちゃんと目が届いているのか不安だった①)》のように、《自分が傍にいない時のわが子の心配をする》といった、【忙しい看護師がわが子を安全に見てくれるか心配】する体験をしていた。

6) 【看護師に手を掛けてもらうことへの諦め】

母親は、《NICUは基本看護師さん、小児科病棟はお母さん、で極端だと思った③)》のように、《NICUよりもわが子に手をかけてもらえていないと感る》、《ただ重要どころだけ見てくれたら④)》と、《全て見てもらえないのは仕方がないと感じる》ようになっていた。そして、《モニターくらいは“お母さんがつけてくれるだろう”とか、“何かあったら言ってくれるだろう”っていうレベルではあるなっていう①)》のように、《看護師の代わりに看ることを求められているように感じ(る)》、《他の母親が頑張っているのに、自分だけ頼めないと思う》といった、【看護師に手を掛けてもらうことへの諦め】を感じる体験をしていた。

7) 【わが子のためにケアを頑張る】

母親は、《ほんとに24時間つきっきりじゃないですか、ここにいます。その時に寝不足にはなるし、全部ミルクとかも自分で取りに行っで温めてってしなきゃいけないし、その時思いましたね、あっ違う、今までとは違うって…略…なんかでもやっぱりやらなきゃっていうのがすごい、どうせここを出たら全部自分でしなきゃいけないんだからっていうのがあったんで①)》のように、《わが子の世話を自分でできるようにならなければと腹をくくる》ようになり、《沐浴の時に看護師が側にいて教えてくれて。全然わかんなくて、おぼれちゃうんじゃないのかなって思っで大変だった。いつの間にか自分で入れに行ったりできるようになって。なんか最初はどなるのかなって何もかも思っでけど、やってみればできるものなのかなって①)》のように、《沐浴を勇気を出してやってみる》といった、【わが子のためにケアを頑張る】体験をしていた。

8) 【付き添うことによる疲労】

母親は、《自分の体もしんどく、子どもも気になり、周りにも気を遣ってすごく疲れる②)》のように、同室の児や付き添い者などの《周囲に気を遣う》と共に、《身体がしんどい》といった【付き添うことによる疲労】の体験をしていた。

9) 【自責の念】

母親は、《点滴姿を見たり手術したりするとやっぱり私のせいだなと思います④)》のように、わが子の入院は《自分のせいだと感じ》、《変わってあげられればと思う》体験をしていた。そして、《健康に産んであげられなかったと思う》と、【自責の念】を抱いていた。

10) 【児の小さなことにも心が揺れる】

母親は、《今は目の前の検査や手術とか、やることがいっぱいで。落ち着いたときにいろいろ考えちゃう④)》のように、《落ち着いたときにいろいろ考える》ことや、《体重が増えていたら、『あーよかった』、体重が減っていたら『やっぱりまたか』と…④)》のように、《毎日浮き沈みがある》という【児の小さなことにも心が揺れる】体験をしていた。

VI. 考 察

1. NICUから一般病棟へ転棟直後の不安軽減

NICUから一般病棟へ転棟直後の児の母親は、わが子の転棟をどう捉えて良いのか分からないと感じており、母親にとって転棟は必ずしも肯定的な出来事ではないことが分かった。糸井ら⁵⁾は「肯定的な思いが想定されるような児の状態改善につながる出来事も、両親にとっては複雑な思いが入り混じっている可能性がある」と述べている。看護師は母親がわが子の転棟をどのように感じているのかに関心を寄せ、それぞれの母親の感情をふまえた関りをしていく必要がある。また母親は、一般病棟での受け持ち看護師が分からない、一般病棟の設備の利用方法やルールが分からない、などから、一般病棟についての情報が母親へ十分伝わっていないことが推察される。受け持ち看護師が分からないということは、いわば病棟で一番身近な相談相手が分からないということである。前林ら⁶⁾が「プライマリーをつける場合は、オリエンテーションを行う時に紹介し、転出前より関わりを持ち家族が頼れる存在をつくる事で不安を軽減させられる」と述べているように、転棟直後、もしくは転棟が決まった時点で、母親に対して受け持ち看護師を明確にし、転棟病棟のオリエンテーションや見学等を行う必要

があると考えられる。そして、わが子のケアや処置を行うことに慣れていない一般病棟の看護師に対して母親は不安を抱えていることから、転棟前にNICUと一般病棟の看護師間で児の情報を共有し、転棟後も引き続き同様のケアが受けられるようにすることは、母親の不安軽減につながるのではないかと考えられる。具体的には、一般病棟の看護師による児のケアや処置の事前見学、使用物品の統一などが考えられる。そして、転棟直後の児の母親は看護師に質問や意見が言いにくいことをふまえ、意図的に母親へ声を掛け、不安の軽減に努めていくことが大切であると考えられる。

2. 母親の状態を見極め、力を引き出す丁寧な関り

母親は一般病棟の看護師からわが子の世話やケアが出来るものとして扱われ、戸惑い、不安に思う体験をしていた。母親の育児や医療的ケアの手技の獲得状況は、転棟前の児の状態や母親の面会状況、また育児経験の有無等にも左右される。したがって、母親の背景に注目し、個々のペースや理解度に合わせた援助が重要である。

不安を抱えながらも母親がわが子のケアを行う背景には、看護に対する心配や諦め、児の状態に対する自責の念があると思われる。自責の念は、本研究では先天性心疾患をもつ児の母親を対象とした文献から抽出されたが、そうした感情を抱くのは先天性疾患児の母親だけではない。飯塚⁷⁾は、NICUから退院間近の低出生体重児の母親の早産に対する自責の念は、順調に子どもが回復していても払拭されるものではなかったことを報告している。自分が頑張るしかないという気持ちや贖罪の気持ちからの頑張りは、母親の疲労を助長し孤立につながる恐れがある。そのため、母親が、わが子のためにと頑張るだけでなく、自分はわが子が望むケアができるのだと感じてケアを行っていきることが大切である。例えば母親の頑張りを肯定し、看護師が感じ取った児の感情を伝えたり、児の母親を求める仕草や変化を伝えたりするなど、母親の自己効力感を高める援助を行っていきと良いと考える⁸⁾。そのためには、母親が感情を一人で抱え込まないよう配慮し、母親のわが子をケアする力を引き出していき丁寧な関りが重要であると考えられる。

3. 母親の疲労緩和

NICUから一般病棟へ転棟後の付き添い生活で、母親は心身共に疲労していた。今西⁹⁾が「母親の意識が『母親の苦しみ』から『自分を気遣う他者』や『入院児の苦しみを緩和しようとする他者』に向かうことで、母親は入院児に付き添う意味を思い起こし、苦しみが和らぎ、安定して入院児に付き添えるのではないかと述べている

ように、母親が自分を気遣う他者、すなわち医療者から気に掛けて貰えていると感じられることは、母親の精神面の安定につながるかと考える。児を一時的に預かるなど、母親の身体的疲労に対する援助を行うと共に、頑張りが過ぎてしまう母親が孤立してしまわないよう、頼っても良い存在が近くにいることを母親へ伝えていくことが大切であると考えられる。

一般病棟の看護師は、母親の育児や医療的ケアの指導に注目しがちであるが、NICUから転棟してきた児の母親は、複雑な心情を抱え、頑張りが、疲れている。そうした母親の状態を理解して関わっていくことが大切である。

VII. 結 論

1. NICU から一般病棟へ転棟した児の母親の体験として、転棟直後は、【NICU から出たことは良かったのか分からない】気持ちや、【一般病棟での生活のイメージがつかない】【一般病棟の看護への不安】という体験をしていた。その後は、【わが子の回復に安堵】し、【わが子と一緒にいられる喜び】を感じる一方で、他児と比べ【わが子の小ささを実感】したり、【初めてのケアを一人でやることへの不安】を感じたりしていた。また、【忙しい看護師がわが子を安全に見てくれるか心配】し、【看護師に手を掛けてもらうことへの諦め】を感じながらも【わが子のためにケアを頑張る】体験をしていた。そうした母親は【付き添うことによる疲労】を抱えていた。母親は転棟後も【自責の念】を抱き、【児の小さなことにも心が揺れる】体験をしていた。
2. NICU から一般病棟へ転棟した児の母親への看護として、転棟直後の不安軽減、母親の状態を見極め力を引き出す丁寧な関わり、疲労緩和の必要性が示唆された。

VIII. 研究の限界と今後の課題

本研究は医中誌のみによる文献検討であるため、国内における研究を完全に把握したとは言えない。今後は他のデータベースでの文献検索や、海外文献との比較検討も必要である。

文 献

- 1) 厚生労働省. 医療的ケア児について. <https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12201000-Shakaiengokyo>

- shougaihokenfukushibu-Kikakuka/0000117580.pdf. (掲載日2016.3.16, アクセス日2021.8.14).
- 2) 舟木仁一, 森 俊彦, 梅原 実, 他. 長期入院児の在宅医療や重症心身障害児施設等への移行問題. 日本小児科学会雑誌 2013;117:1321-5.
 - 3) 梅田弘子. 子どもの入院に付き添う母親の負担の特徴. 広島国際大学看護学ジャーナル 2012;9:45-52.
 - 4) 串崎幸代, 大北遥香. 子どもの入院に付き添う親への支援について. 千里金蘭大学紀要 2015;12:19-26.
 - 5) 糸井麻希子, 我部山キヨ子, 川野由子, 他. NICU入院児の両親が退院後に印象に残る出来事とその思いの推移: ライフライン分析より. 女性心身医学 2020;24:306-14. doi:10.18977/jspog.24.3_306.
 - 6) 前林雅世, 長野寛子. NICUから小児病棟へ転出した患児の両親へのオリエンテーションのあり方. 日本看護学会論文集:小児看護 2008;38:116-8.
 - 7) 飯塚有紀. NICU への入院を経験した低出生体重児の母親にとっての母子分離と母子再統合という体験. 発達心理学研究 2013;24:263-72. doi:10.11201/jjdp.24.263
 - 8) 藤原万由美, 山口孝子, 堀田法子. NICU入院児の母親の自尊感情とその関連要因. 小児保健研究 2020; 79:304-13.
 - 9) 今西誠子. 入院児に付き添う母親の苦しみ. 京都市立看護短期大学紀要 2013;37:13-23.

(受付 2021年9月3日)